

題名を眺めるだけでもかまわないし、  
気になつた作品があれば読んでみるのもいい。

四百三十九

//kinto.jp/

あなたは PC タブレット もしくはスマートフォンの画面を消す  
そして、つぶやく。

あなたは電車に乗って三宮／三ノ宮／神戸三宮駅へとやって来る。  
天気は、晴れているかもしれないし、雨が降っているかもしれない。  
駅の改札を出たところであなたは一度、立ち止まる。◎。

あなた 「(少し息を吸い込む)……」

海の香りはしない。

あなたは、再び歩き出す。

「この駅の人たちは知りません」

あなたは、駅を出てすぐの歩道橋に向かう。

歩道橋の上からこれから進む道をまっすぐ見下ろす。

あなたは、昨夜、見た地図を思い出す。

右手にはマルイ、左手にはそごう。

車は流れ、大勢の人が歩いている。

友ならば、ひとつそりとしているかも知れない。

勤務するようだ。まずは、あこがれていた  
「K-I-T-O」の「」  
は！ 三宮駅社に  
どおどろいたのに、次に  
いや、落ちつけ、葵、  
まえは本社に入れ  
社のどこに配置さ  
い、そんなにおどろ  
するぞ。くわしいこ  
ばい。今日は帰つ  
ないか……。

あなた  
「この道の名前はフラワーロードといいます。  
かつてここには川が流れていました。  
この道はK I I T Oへとまっすぐ続きます」

あなたは、フラワーロード右側の歩道へとつながる階段を降りる。  
階段下に、喫煙所がある。

もし夜ならば、昼間の喧騒を少しだけ想像する。  
あなたは、ゆっくりとだらかな坂道を下っていく。  
大きな交差点をひとつ越える。

フラワーロード右側の歩道、大きな花時計<sup>◎</sup>がある。  
あなたは、花時計で時間を確かめる。  
ここまでにかかった時間と、これから的时间について考える。

花時計を越えると、神戸市役所がある。  
神戸市役所には、この道を一望できる展望ロビー<sup>◎</sup>がある。  
もしあなたにまだ時間があるならば、そこに立ち寄つてもいい。

3 「ななめのおもい」<sup>3</sup>

あなた 「このななめの植木には【ななめのおもい】<sup>3</sup> があります  
その声はもちろん、誰にも聞こえません」

あなたは、再び、歩き出す。

フラワーロード右側には東遊園地が広がる。  
東遊園地近くの歩道には、沢山の像が設置されている。

その中に、スースの襟元を型どった像がある。  
あなたは、その像の前で立ち止まる。

あなたは【メデューサののろい】<sup>4</sup>によつて像になりました

あなたは、耳をすませる。

あなた「彼らの声を人は聞くことはできません」

オレはスーツのまま市役所に向かう。ロードのわきにある植物の植え込みがあり、備されている。日曜日の十三時にはいつも長髪の口笛で持参したケースを出し練習をはじめることでは恐れない。せならオレはモニヨン、オレがモニメン、はのろいのせい。あなたは、再び、歩き出す。フラワーロード右側の東遊園地の中に、細長い石が立っている。石には「加納橋」と書かれている。あなたは、立ち止まり、対岸の歩道を見る。ペットボトルの水を持ち上げながら。「かつてここには生田川と呼ばれる川が流れていました。」

あなた  
「しかし、ここにはもう橋はありません。」  
【恋し君】<sup>5</sup>を探し、この橋に訪れた人も、もういません」

対岸の、フラワーロード左側には、トヨタビルが見える。  
トヨタビルの前にも、像がある。

あなた  
「あのビルの前には【マスクA】<sup>6</sup>と名付けられたモニュメントがあります」

【僕には重すぎる選択】だと彼は考えながら、それでも旅立とうとしています。でも、そんな決意も、ここにいる人たちは、みんな知りません」

あなた 「かつて、この道は、その下の土は、大きく揺れました。

歩道が、不安定に崩れている箇所。がある。

あなたは、その崩れた歩道の上をゆっくりと歩く。

フラーード右側の歩道。

道だけでなく、水も、海も、人も、ビルも、山も、すべてが揺れました。  
この道は、そのときの形のままに残されています」

あなたは、進行方向に手を伸ばし。

あなたは、手をゆっくりと下ろしながら。

あなたたちは、その揺れで亡くなつた人たちの慰霊のモニュメント<sup>◎</sup>があります

あなたたちは、手をゆっくりと下ろしながら。

あなたたちは、手をゆっくりと下ろしながら。

あなた 「彼らは、かつてここにいました。」

彼らは、今はもういません。

彼らの声を人はもう聞くことはできません

ただ水だけが彼らの声を聞いています」

噴水と慰霊のモニュメントが見えてくる。

あなたは、その前で立ち止まり、目をつむる。

「意味分かんない  
「よく分からぬ  
形……」  
出るまどうしゃ。

あなた 「水は、何も見ません。」

水は、何も考えません。

そのかわり、水は、聞くことができます。

さまざまな声を聞きながら、水は流れます」

あなたは、目を開け、歩く。

あなたは、慰霊のモニュメントを通り過ぎ、横断歩道を渡る。

ここで生まれて「く鉄」と呼ばれていいやない。まるで僕らしいみたいじゃない。長かった。やつらから端っこまで来いんだ。反対側の海らしいらしい。目の前さんが言っていた。ら溶けてボロボロに今夜、僕はまたな

あなた 東遊園地の広場が見えてくる。  
彼らは、恋や喧嘩などたくさんの会話、もし広場に猫がいるなら、あなたは近づいてみる。  
【ダイアローグ・キャツツアイ】<sup>9</sup> をしています。

「ここでは猫たちの【ねこのたんけん】<sup>8</sup> が行われています。

市役所の時計が止まっている。よし、今だ。まじい衝撃が走った。トレーニングの着地できる自信もなかった。跳び降りる。人が目くシャンブして跳え、僕は歩き始めた。

あなたは、ペットボトルの水を拾い上げ、歩道橋へと登る。

あなた 「この歩道橋こはられたステッカーは音を聞きました

あなた 「そこに溺れるタバコがありました。  
彼はずつと【俺はここで】<sup>10</sup> つぶやいていました  
が、その声を聞く人はいませんでした」

あなた 「おかしいなー」ハーナの方をスローハイライトへと戻す  
さめようと思の中で、かなかはずかしくて、はじく白のことがす  
「ケイ」が白をなぐきをする、なかなかのなにおねえさんでとき  
白に話しかけた。  
「おかしを買ってなさい」

白は、すぐ喝きや  
は、「おかしが大き」とけつこ  
と、「おかし」というぐらいで  
うたびに、ぱくとケ  
つてしまいそうに

あなたは、歩道橋を進む。

あなた「若い男女の声です。」

彼らはロミオとジュリエットを演じる遊び、  
【インスターント・ロミジユリ】<sup>11</sup>をしていました。

ステッカーは彼らの声を聞きました

だけど、彼らはステッカーの声を聞くことはありませんでした

儀は、神戸のとある辰吉といわれた。でもよい。土曜でも詠もうかなとなん、先ほどから儀のいる。

足音が近づいてやめよう」と相手のこの男、見たところ後いや若作りしているか。ブレーンニ

9 「ダイアローグ

あなたは、歩道橋の真ん中で立ち止まる。  
そして、自分が今まで歩いてきた道を歩道橋の上から見る。  
「この道の名前はフラワーロードといいます。  
かつてここには川が流れっていました。  
この道はＫＩＩＴＯへとまっすぐ続きます」

あなたは、目をつむる。  
あなたは、何も見ません。  
水は、何も考えません。  
そのかわり、水は、聞くことができます。  
さまざま声を聞きながら、水は流れます」

あなたは、ペットボトルの水を掲げる。  
あなたは、ペットボトルの水を掲げる。

「私は介護士で  
わづて十年になります。  
僕は、この人物が  
ヤツだとわかったの  
く気になった。  
陽だまりが少し  
移った。  
し出された隣のベイ  
青さんも後に繋け  
んだろう。 一体オレ

あなた  
わたしは、今、水になつています。  
ここを流れる水になつています。  
水に目はありません。  
だから、水は何も見ず、ただ聞き、ただ流れます。  
ここにあるもの、ここにないもの、ここにあつたもの。  
それらの声を聞き、流れます。

細く、小さい、かすかな声たちは、絡まつて、紡がれて、糸になります

画  
全く予想もして  
やつたのだ、あれ  
は榮光を掴もう  
少しで理想に追  
う。吸われるはずの  
い。神戸の空は広い  
なオレたちはもっと  
みとして死に  
での人生を推し量る  
「たばこ界」っての  
火をつけられて、喉  
その一瞬のために、喉  
た。

しかし、人間って  
ともオレの持ち主は  
初めて会った瞬間  
リーマンというか、  
イツに吸われるんだ  
なって思った。仲間  
立っていくのを見な  
た。安いライターの  
の前で聞けるんだと  
労を思い出して涙が  
した。  
「だが、事は簡単」  
日、風の少し強い夜  
オレは遅にスター  
ルミのドアを開いて  
あなたは、目を開けて、歩き出す。  
歩道橋を降りて、高速道路の下を歩きながら。  
「糸には意図があります。  
誰かが、どこかにつなごうとつむいだ、意図があります。  
糸は意図ある人によつて生まれます。  
かつて日本の生糸はここに集められていました。

日本中のさまざまな意図を紡いだ糸はここに集まつていきました。  
水には意図はありません、ただ聞くだけです」

あなた 「今日、わたしは、水になつて流れました。

もし、わたしが、まだ水ならば、このまま流れます。

神戸税関が右手にある。

あなたは、信号を渡る。

その時、公園のベンチを見つけて笑った。  
オレを見て笑った。  
美人だった。その  
たオレの体は宙に浮いていた。  
何が起きたのかわから顔を出した。  
オレを睨んでいた  
のほへと振られて  
いつもくれば睨いで  
月日もいつかは

そして、この先の海へと向かいましょう」  
あなたは、ペットボトルの水を一口、飲む。  
あなたは、「しかし、もしわたしが意図ある人ならば、ここで、この旅は終わります。そして、わたしには、もうあの声たちは聞こえなくなります。声が聞こえなくなるかわりに、わたしは、声をつむいで、糸をつくることができるようになる」

あなたの夜の出来事をたオレはタベ近くフェのカブに話して、「死ぬて難しいな、突然、話しかから聞き返してきたが、かを語る体力がないわ」といふに漫っている

